人穴小 学校だより

ふれあい

令和２年６月29日
富士宮市立人穴小学校
第３号

ＴＥＬ５２－００４０

ホームページ　http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/e-hitoana/

学校教育目標『自らをきたえ　共に生きる子』

「一日はさわやかなあいさつから」

校長　柏木　武文

梅雨の晴れ間にのぞく太陽は、もう真夏を感じさせるような陽射しです。とはいえ、思わぬ梅雨寒にふるえる朝もあり、健康管理の難しさも感じます。

６月始めに学校を再開して、１ヶ月がたとうとしています。これまで大きな問題もなく、子供たちが毎日元気に登校できていることを、たいへん嬉しく思います。同時に、それぞれのご家庭で、休校開けの生活リズム作りや健康管理を丁寧に行ってくださったおかげと感謝しております。

さて、人穴小の校長室の窓からは、登校する子供たちの様子、運動場で活動する様子がよく見えます。毎朝、この窓をチラッとのぞいて「おはようございます」と笑顔を見せてくれる子がいます。このあいさつから「よし、今日も頑張ろう」と、私の学校での一日が始まります。たった一言でいい気分になるのですから、あいさつとは不思議なものだと思います。人穴小の子供たちは、こちらから声をかけなくても自分からあいさつができる子が多いです。当たり前のように感じるかもしれませんが、言われて返すのではなく、自らごく自然にあいさつをするのはなかなかできることではありません。人穴小の子供たちの素晴らしさの１つです。さわやかなあいさつから始まる一日…とても素敵だと感じています。こんな子供たちとの日常をこれからも大切にしていきたいと思っています。

コロナウイルス感染症については、まだまだ安心できる状況ではありません。学校では「新しい生活様式」を意識しながら、それぞれの学年で学習すべき内容をきちんと身につけられるように、そして心の成長を促す行事については密を避ける手立てが可能なものはできるだけ工夫して実施する方向で、教育計画を修正しつつ進めています。

この時期に、特に子供たちに身に付けたい力として以下の２つを考えています。

１　「自ら学ぶ力」

休校を続けていたときでも、自ら学ぶ習慣が身に付いていた子供は、学びを持続できました。これからの未来は予測困難です。今年度の重点目標でも示した「知識や技能を自分ごととして確実に習得する力」はますます重要となると思います。学ぶ習慣や学び方を身に付けることに力を入れていきたいです。

２　「自ら判断する力」

自粛が緩和され、新しい生活様式の実践を具体的にイメージしていくと、一人一人の正しい判断が非常に重要だと気付きます。正しい判断ができる子というのは、例えば「となりの人と２ｍの距離をとりなさい」と言われて動くのではなく、「集まりすぎているからちょっと距離をとろう」と自分で判断して適当な間隔をとることができる子ということです。学校にいる時間だけでなく、帰宅後や外出時にも判断できるようになることが大切です。

コロナウイルス感染症は大きな不安であり、多くの日常を奪いましたが、マイナス面ばかり考えるのではなく、前を向いて行きたいです。「ピンチがチャンス」…使い古された言葉ですが、成長する大きな機会ととらえ、子供たちの指導にあたっていきます。ご家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。